



いしかわかずひさ
さんむ21 石川和久 議員

防災の充実について

問 県の津波浸水想定公表により、我が市としては、どう対応していくのか伺います。

答 総務部長 近年の災害では、想定外という言葉が多く使用されています。そのため、被害が拡大しているとも言われています。市としては、努めて想定外をなくしたいと考えています。そのため、県の津波浸水想定を参考とし、市のハザードマップに記載の10mを基準として、津波への対応を続けていきたいと考えています。

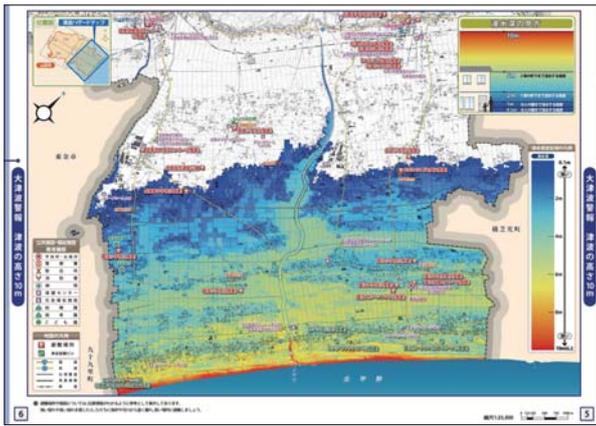
問 地域防災計画は策定から4年が経過していますが、計画の修正・見直しを予定しているか伺います。

答 総務部長 作成から4年以上が経過し、現状に適していないところがあります。市としては、来年度当初に、災害対応業務の実効性を向上させ

るための業務継続計画、いわゆるBCPを策定し、その後、災害対策業務で不足する人、物等の資源を補うための計画を作成します。

問 各種計画やマニュアル、ハザードマップは、経年で変化させなければいけないと考えますが、定期的に見直す考えはあるか伺います。

答 総務部長 各種計画については、2年で修正を図りたいと考えています。また、ハザードマップの見直しについては、3年で修正できればと考えています。



現在の津波ハザードマップ

市の災害対応業務について

問 職員の災害業務の理解は重要であると思います。職員の災害対応業

務に対する理解促進のための施策について伺います。

答 総務部長 職員の防災に対する意識を高めるために、職員研修で、「行政の災害対応について」と題し、講師を招き、講話をしていただいています。今後は業務継続計画の策定を進めるとともに、策定後、各対策部内の班単位での災害対応業務についてのシミュレーション訓練を実施して、理解を深めていきたいと考えています。

問 首都直下型地震などの大規模災害では、県全体が被災する可能性があります。その場合の対策は考えているか伺います。

答 市長 市が被災することが想定される災害で、被災することなく、移動に比較的時間を要さない地域で、同様の人口規模、また災害に対する知識を有する、新潟県、茨城県、愛知県の自治体と災害相互応援協定を締結するための準備を始めたところです。

海岸浸食について

問 九十九里浜一帯は、大規模な海岸浸食の問題を抱えています。市内の海岸浸食状況と見通しについて伺います。

答 都市建設部長 現状では、本市の海岸は、砂浜の幅が約60mから160mを有しています。これは将来

的にも、砂の堆積傾向が見られ、特に本須賀海水浴場においては、片貝漁港の影響により、堆積が強まり、良好な砂浜として、今後の各種イベント等にも活用できるものと予想しています。

ブルーフラッグ認証の取得について

問 ブルーフラッグ認証の目的は、持続可能な社会の構築に向け、海水浴場における環境保全、環境教育を推進するためのものです。市長の環境保全・教育についての考えを伺います。

答 市長 本須賀海岸の近隣住民の方だけではなく、市全体で取り組んでいきたいと考えています。次世代に継承していくためにも、子どもの中から、環境保全について学んでいくためのセミナーなどを開催し、学びの機会を設けていきたいと考えています。



ブルーフラッグ認証取得を目指す本須賀海岸